

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 旭丘小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（3月9日）					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	【確かな学力】 基礎基本の学力を 定着させ、論理的 思考力・判断力・ 表現力を高める。	★	継続	子ども主体の学び を実現させる。 【思】	ICTを有効活用しな がら、学びを深 化・進化させるた めの授業づくりに 取り組み、研修を 通して実践交流を 行う。	児童アンケート 「学びが楽しい」 「授業はよく分か る」の肯定的評価 を85%以上。	□児童アンケート の結果、「学びが 楽しい」の肯定的 評価89%、「授 業がよく分かる」 の肯定的評価9 1%であった。	3	4	学期に1回以上授業 を公開し、ICTを効 果的に活用しなが ら実践交流を行 い、子ども主体の 学びの実現を目指 す。	□児童アンケートの 結果、「学びが楽 しい」の肯定的評価8 9%、「授業がよく 分かる」の肯定的評 価96%であった。	4	4	4	教員同士による授業 観察や意見交流を図 り、子どもを主語と した授業について、 教員間でイメージを 共有化したうえで対 話や授業改善に取り 組む。
5	【豊かな心】 児童が自ら考えて 行動する学校をつ くる。		継続	自分で考え、行動 する児童を育て る。 【課】【主】	リーダーチャート を活用して、取組 の成果と改善点を 代表委員会や終礼 等で交流する。 児童会が児童全体 が主体的に取り組 める内容を計画 し、実践してい く。	学級リーダー チャートにおいて 「目標達成力」の 全校平均85%以 上。 児童アンケートの 「自分の考えやよ さが認められてい る。」85%以 上。	□「目標達成力」 の平均は90%で あった。毎月の児 童会目標の達成に 向けて取組を考え ている。 □「自分の考えや 良さが認められて いる」アンケート の平均は74%で あった。	3	3	自分の考えを発信 し広げていくため に、児童会活動や 学級会活動を通し て、相手を受け入 れたり肯定したり する場を設定す る。	□「目標達成力」の 平均は90%であ った。毎月の児童会 目標の達成や行事の 際の目標達成に向 けての取組を考え ている。 □「自分の考えや良 さが認められてい る」アンケートの平 均は84.9%であ った。	4	3	4	児童会活動や学級会 活動の具体例を示 し、その活動を通 して、目標達成に向 かって努力する力を 伸ばしたり、相手 を受け入れたり肯定 したりする場を設定 する。
5	【健やかな体】 主体的に体力を向 上させる児童を育 てる。		継続	体力向上のための 目標をもち取組 む児童を育てる。 【主】	柔軟性、筋力、バ ランス感覚など、 走運動に関わるス キルについて、月 ごとに内容を決 め、体育科の時間 や家庭学習で取り 組む。	50m走のタイムを 縮めることができ た児童を80%以 上。	50m走のタイムを 縮めることができ た児童の割合は 62%だった。	3	2	目標を共有して取 り組むために、月 初めにどのような 体力づくり運動を 行うのか教室内に 掲示する。また、 児童実態に合った 体力づくり運動に するための検討を 重ねる。	50m走のタイムを縮 めることができた児 童の割合は 84% だった。	3	3	4	体育科の時間や家庭 学習で体力づくりに 取り組んできた。児 童が楽しく体力づく りができるように、 話し合いを重ね、指 導のポイントを周知 し、学校全体で取組 が進められたこと である一定の結果を得 られた。

4	【力量ある教職員】 教職員の授業力・専門性を身につける。	★	継続	働き方改革の意義を理解し、業務の効率化を図る。 【課】	「学びの3つのシンカ」を目指し業務の効率化を図るとともに、取組の質を高めるための具体策を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が時間外勤務時間を月45時間年間360時間以内。 教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定的評価90%以上。 	<input type="checkbox"/> 時間外勤務時間45時間以内の達成率が95.6%。 <input type="checkbox"/> やりがいを感じている職員の肯定的評価84.6%であった。	4	4	教職員一人一人がやりがいを感じることができるように、周りを巻き込んだ取組を進めたり取組の成果を共有したりする。	<input type="checkbox"/> 時間外勤務時間月45時間以内の達成率が94.2%。 <input type="checkbox"/> やりがいを感じている職員の肯定的評価78.5%であった。	3	3	3	見通しをもって業務を進めることで、ほぼ100%達成した。 教職員が、各自の明確な目標や目指す子ども像をもって教育活動を進めていくとともに、強みや挑戦する場を生かした取組を進める。
5	【市民から信頼される学校】 学校・家庭・地域がつながり、学校の教育力を高める。		継続	学校・家庭・地域が学校の取組を共有し、児童を育てる。 【主】 【共】	学校の教育活動を学校だよりやHPに加え、様々な発信手段を用いて積極的に保護者に伝える。	保護者・地域アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価を90%以上。	<input type="checkbox"/> 保護者対象のアンケート、学校の教育活動に対する肯定的評価93%、情報発信に対する肯定的評価90.3%であった。	4	4	学校行事だけでなく、日々子ども達の活動の様子や成長が視覚的に伝わるよう工夫したホームページや学校便り、学年便り等をタイムリーに発信する。	<input type="checkbox"/> 保護者対象のアンケート、学校の教育活動に対する肯定的評価94%、情報発信に対する肯定的評価89.9%であった。「楽しく学校に通っている」に対する回答は94.2%であった。	4	4	4	引き続き、学校の教育活動に対する満足度を維持するよう取り組むとともに、より子ども達の成長や活躍を実感できるよう、情報発信を充実させていく。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。